

わ

が

街

わ

が

故

郷

株式会社ジェイテクト 刈谷工場所在地—刈谷市

株式会社ジェイテクトは、光洋精工株式会社と豊田工機株式会社が合併し2006年1月に誕生しました。

刈谷工場（愛知県刈谷市朝日町1丁目1番地）は、昭和16年に、優れた国産工作機械の生産を目的として、当時のトヨタ自動車工業株式会社から分離独立し、豊田工機が設立された所です。その後、豊田工機の本社として工作機械の生産を中心としながら、初期の自動車部品やメカトロニクス製品もここで生産開始されました。ジェイテクトとなった現在も、工作機械事業のメイン拠点として、円筒研削盤、専用機、マシニングセンタなどの各種工作機械生産のほか、関連の営業・設計・研究開発などの諸機能が集結しています。また、駆動系部品の一部も生産しています。

場が完成したころの周辺は、田圃が一面に広がっていて、駅前に旅館とうどん屋などの商店が数えるほどあるだけで、人家も少ないのんびりした土地であったそうです。現在の刈谷工場周辺は、トヨタグループの(株)デンソー、アイシン精機(株)などの本社や工場が隣接しており、新幹線の南側車窓からその姿を見ることができます。



刈谷工場の周辺



刈谷工場 事務本館

今でこそ、刈谷市は自動車関連産業を中心とする工業都市として知られていますが、刈谷工

刈谷市は、愛知県の東半分を占める三河地区の西端に位置し、南北13.2km、東西は5.8kmと、南北に細長い形をしています。西の尾張地区とは境川を境界線として接しており、人々が話す言葉も川を境に、三河弁と名古屋弁に分かれています。

刈谷の地名は、元慶元年（877）に出雲より一族を連れ移住した狩谷出雲守の名に由来するものと言われています。刈谷市が都市形態をとり始めたのは、戦国武将の水野氏が天文2年

(1533)に刈谷城（現在の亀城公園）を築いてからです。水野家は徳川家康の生母「於大の方」の実家で、亀城の他にも於大の方が一時期住んでいた椎の木屋敷跡などがあり、刈谷は於大の方ゆかりの地とも言われています。



椎の木屋敷跡にある於大の方の肖像



亀城公園

その後、江戸時代になって刈谷藩が成立し、藩の家臣団や商工の町人によって構成された城下町として発展してきました。明治中期に鉄道が開通してからは、地方商業都市としての位置付けでしたが、大正の末期から昭和のはじめにかけて、豊田系企業の工場誘致により新興工業都市としても栄えることとなり、次第に現在の刈谷市の輪郭ができ上がっていきました。昭和の高度経済成長、モータリゼーションの進展にともなって自動車関連産業の集積地として飛躍的に発展し、現在に至っています。

モータリゼーションの進展で、街の景観が激変した場所は刈谷工場の北方を通る国道155号

線沿いです。今でも年々賑やかさを増しており、グルメをはじめ各種店舗や施設が立ち並び、人々のライフスタイルの変化に合わせた新しい商業エリアへと変身してきました。

特に、刈谷工場の近くでは自動車ディーラーの進出が目覚しく、1km以内に10社のショールームが集中しています。日本車は軽自動車からレクサスまでほとんど勢ぞろいしており、輸入車店もベンツやボルボなどがあって、クルマ好きの方にはお勧めのスポットです。



賑やかな155号線沿い

一方、自然や伝統文化の面でも、見どころが多い街です。市北部の丘陵地には、国の天然記念物に指定されたカキツバタ群落で有名な小堤西池や、毎年秋に音楽祭が開かれる緑豊かな洲原公園などがあり、素晴らしい自然環境も守られています。カキツバタの見頃は5月中旬から下旬で、緑一面の湿原に咲く清楚な青紫色の花を見ながら、この辺りをのんびり散策すると、産業の街とはまったく別の刈谷の魅力にひたることができます。



刈谷市の花カキツバタ

毎年3月下旬から4月上旬にわたって、亀城公園と洲原公園で開催される桜まつりは春を楽しむ一押しのイベントです。淡い照明に浮かぶ花の下をそぞろ歩く夜桜見物も独特の風情があり、市民の春の夜の楽しみの一つになっています。

夏は、天下の奇祭といわれる伝統の「万燈祭」や、「わんさか祭」の花火大会が、近隣の市民の楽しみにもなっていており、年々メジャーな祭りへと拡大しつつあります。



万燈祭



わんさか祭の花火

昨年開かれた愛知万博を機に、伊勢湾岸自動車道と東海環状自動車道が接続され、三重県方面とともに、静岡県と岐阜県へのアクセスが一気に便利なものとなりました。これにより、物流などビジネス面はもちろん、レジャー活動も一段と活発化してきました。刈谷市北部を通る伊勢湾岸自動車道には、パーキングエリアと公園を一体的に整備した「刈谷ハイウェイオアシス」が平成16年12月に完成。産直市場や、土産工房、デラックストイレ等々ユニークな諸施設

が人気を呼び、高速利用者と一般道からの来場者で連日賑わっています。



ハイウェイオアシス

刈谷市は「人にやさしい快適産業文化都市」を目指して、今後もこの勢いで発展、変貌を続けていくことでしょう。しかし、街並みがどう変わろうと、地元の人々と話をしているときなどには、やはりここは三河の地だなあと実感することが多々あります。三河といえば、徳川家康を支えてきた三河武士団を思い浮かべます。その強さの特徴は、派手な戦ぶりなどではなく、主君家康とともにどんな困難にも耐え貫いた粘り強さにあるように思われます。現在の三河では、自動車関連をはじめとするモノづくり産業が発展してきました。この地の企業間では、「質実剛健」とか「愚直なモノづくり」という言葉が尊重されているように、その根底には、三河武士団の、というか、根気よく常に最善を尽くそうと取り組む三河人気質が今日まで脈々と受け継がれているのかもしれない。

西三河へお立ち寄りの節は、刈谷にも足を伸ばしていただき、街の活気とともに、豊かな自然や歴史の浪漫を直に感じていただければと思います。

本文・撮影：
株式会社ジェイテクト 木村 信也
資料・写真協力：
刈谷市観光協会(刈谷市市民経済部商工課)